

「佐仁小学校の佐仁八月踊り伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立佐仁小学校

2 学年・人数

全児童（計 10 名）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成 30 年 4 月～平成 31 年 2 月 総合的な学習の時間、音楽（本校体育館）

平成 30 年 4 月～平成 31 年 2 月 子供会主催「八月クラブ」（佐仁校区福祉館）

(2) 発表の日時・場所

平成 30 年 10 月 7 日（日） 秋季大運動会（本校校庭）

平成 30 年 11 月 10 日（土） 学習発表会（本校体育館）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統的行事について

(1) 名称

佐仁八月踊り（さにはちがつおどり）

(2) 由来

起源は不明であるが、ノロ神の祭式の踊りとして端を発したらしい。そこに村人たちも加わり、旧暦 8 月の丙（ひのえ）を「アラセツ」、壬（みずのえ）を「シバサシ」として、家々を踊り回りながら火災予防祈願をしたことが由来となっている。その後、五穀豊穰祈願の意味も加わり、グループ形成の踊りに形態を変えながら現在に至っている。

(3) 構成等

「イショ（衣裳）踊り」を踊りながら最初の家に向かう。チゼンの音を聞きつけた住民が集まり、輪になってシマ唄に合わせて踊り始める。男性の歌に女性が歌い返ししながら最初はゆっくりと踊るが、途中からチゼンの刻むリズムが早くなり踊りも激しくなる。2 曲ほど踊ると、最後は「六調踊り」で締めくくる。なお、チゼンを打つのは女性と決められているのが佐仁の特徴である。

5 保存会や地域との連携の具体

佐仁校区の八月踊りは県の無形民俗文化財に指定されるなど、民俗的価値が高い伝統文化として有名である。一方で近年は、歌いながら踊ることができる後継者の育成が校区のニーズとなっている。そのニーズに対し、本校では、佐仁八月踊り保存会会長の前田和郎氏を講師として、月 1 回のシマ唄・八月踊り教室を教育課程に位置付けている。また、2 年前からは、子ども会が主体となって「八月クラブ」を発足させ、校区の方々とも月 1 回の練習に取り組んでいる。更に、ナカドゥチェス市中学生との交流学习や鹿児島

島大学の教育環境観察実習の活動の一環として、八月踊り練習を位置付けるとともに、校区の方々に周知して合同練習会を行っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

校区のニーズに応え、後継者育成を意図した伝承活動を行うためには、子どもに明確な目標をもたせることも必要であると考えた。そこで、「学習発表会で子どもだけの八月踊りを披露する」という目標と、その達成のための道筋を子どもたちと共有した。また、校区の方々と合同練習を充実させるためには、より多くの校区の方々に参加していただくことが必要だと考えた。そこで、佐仁校区1区長でもある前田和郎氏と2区長の竹田洋二氏、老人クラブの安田重照氏に協力を依頼し、広報を行っていただいた。また、合同練習日の前々日から1日2回、校区内放送による案内放送を教頭が行った。さらに、本校の取組について校区の方々に知っていただき、協力体制を確立するため、「八月クラブ」に関する記事を作成し、PTA新聞に掲載していただいた。

7 取組の様子



【シマ唄・八月踊り教室の様子】



【交流学習における合同練習】



【八月クラブの様子】



【学習発表会における八月踊り】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

最初は踊り方を忘れていて「去年より難しいな」と感じたけれど、たくさん練習を頑張ったら和郎さんや周り人たちに「上手になったね」とほめられました。嬉しくなりました（2年生児童：「八月クラブ」後の日記より）。

ぼくたちは八月踊りの練習を4月から頑張ってきました。そして、2学期は毎朝練習をしました。佐仁の伝統を受け継ぐぼくたちに注目してください（4年生児童：学習発表会校区向け案内原稿より）。

講師の前田和郎さんを中心に、校区の方々や時には校区外の方も交えながら一緒に八月踊りを学んでいます。子どもたちの覚えていくペースに親はなかなかついていくことができませんが、親子で楽しむ時間ができ、喜んでいます（「八月クラブ」担当保護者：PTA新聞原稿より抜粋）。

子どもたちだけでチヂンをたたき、歌を歌いながら上手に踊ることができていた。これだけの人数で、ここまでできる子どもたちはなかなかいないと思う。大したものです（保存会会長：学習発表会の感想より）。

練習を重ねるにつれ、子どもたちがシマ唄を口ずさんだり、伝統を受け継ぐ決意を口にしたりするようになってきた。地域と連携しながら進めている伝統芸能継承や後継者育成の取組の成果だと実感している（シマ唄・八月踊り教室担当教諭談）。